

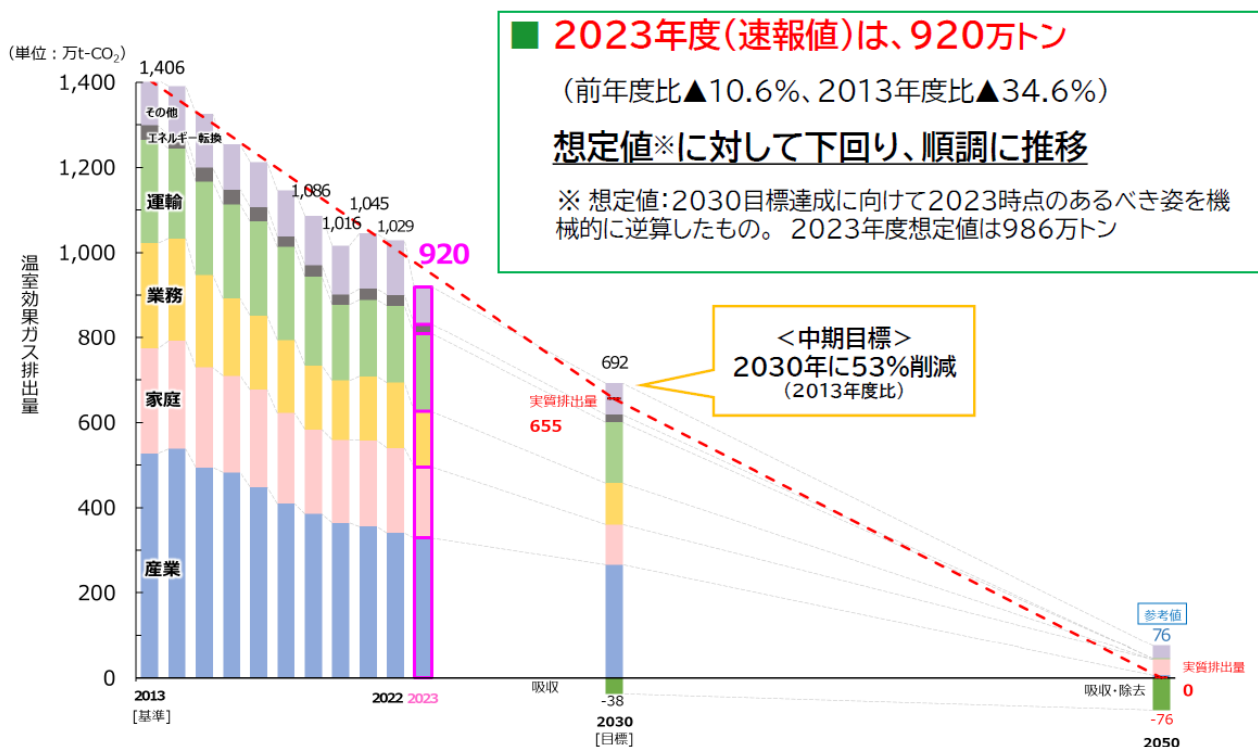
(参考) 富山県カーボンニュートラル戦略の進捗と今後の取組みについて

- ・2023年度の温室効果ガス排出量は、920万トンとなりました。想定値の986万トンを66万トン下回り、順調な減少傾向で推移しています。(スライドP2)
- ・運輸部門の排出量については、想定値を辛うじて下回ったものの、近年は横ばい、削減が鈍い状況です。(スライドP20)
- ・運輸部門エネルギー消費量のほとんどを占める自動車（マイカー等）への対策として、低燃費化などの効率改善、徒歩や自転車、公共交通利用の促進によるマイカー使用の削減等を進める必要があります(スライドP21)。
- ・エコドライブ推進協議会の皆様におかれましては、燃料の消費を抑えCO₂排出量の削減に資する「エコドライブ」がドライバーの皆様にも広く浸透し実践されますよう、引き続きご協力をお願いします。

<以下、スライド> 令和8年度第1回富山県カーボンニュートラル推進本部会議（R8.5）より

<https://www.pref.toyama.jp/102221/kensei/carbonneutral/honbu/20260519kaigi.html>

温室効果ガス排出量（速報値）



※排出量算定手法を一部変更しているため、CN戦略（R5.3）の値と異なります。中期目標（2030年度に、2013年度比53%削減）については、変更ありません。

④ 運輸部門 内訳と削減策

【運輸部門の温室効果ガス
排出量(2023年度)】

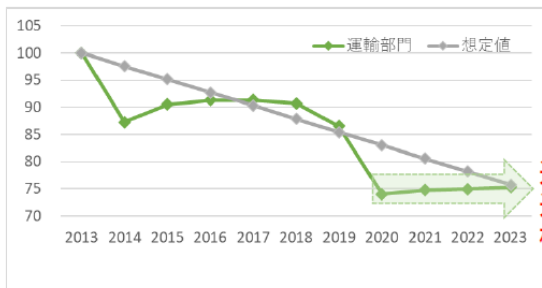
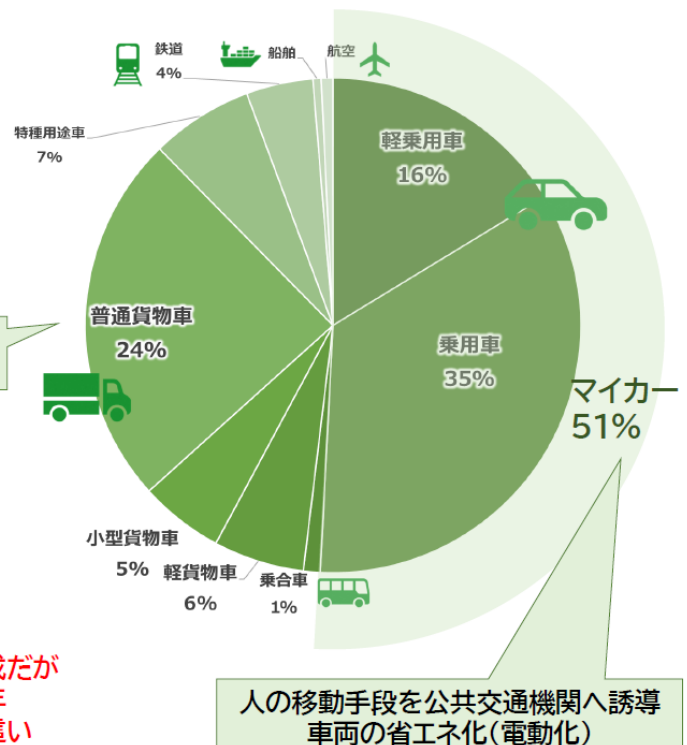
・速報値: 182万トン

・想定値: 184万トン

⇒ 達成(ただし、近年は横這い)

物流の効率化・モーダルシフト
車両の省エネ化(電動化)

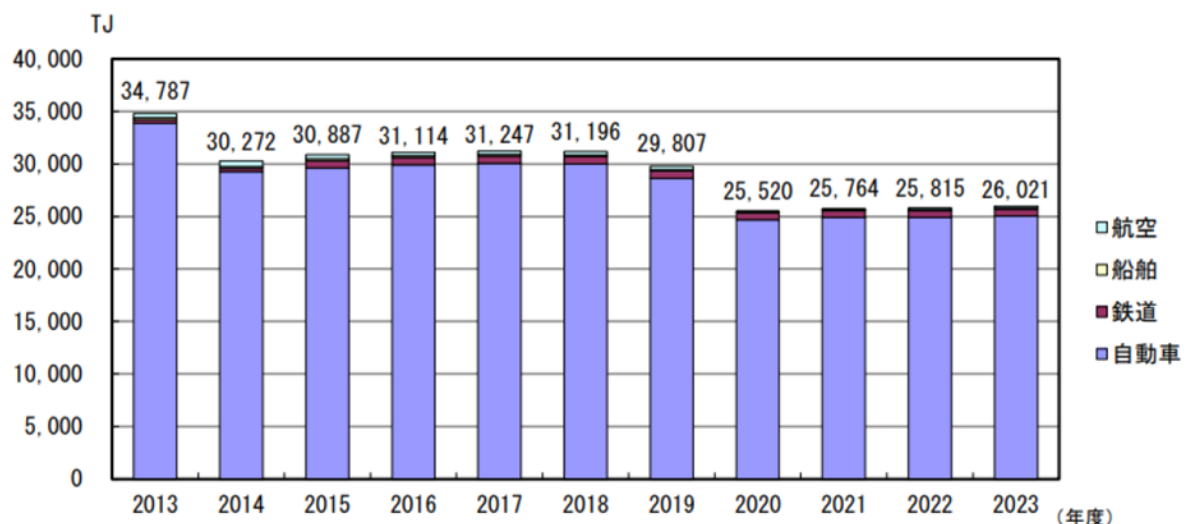
CO₂排出量の推移
(2013年度を100とした場合)



20

④ 運輸部門 要因分析

運輸部門 エネルギー消費量の推移 (単位:TJ)



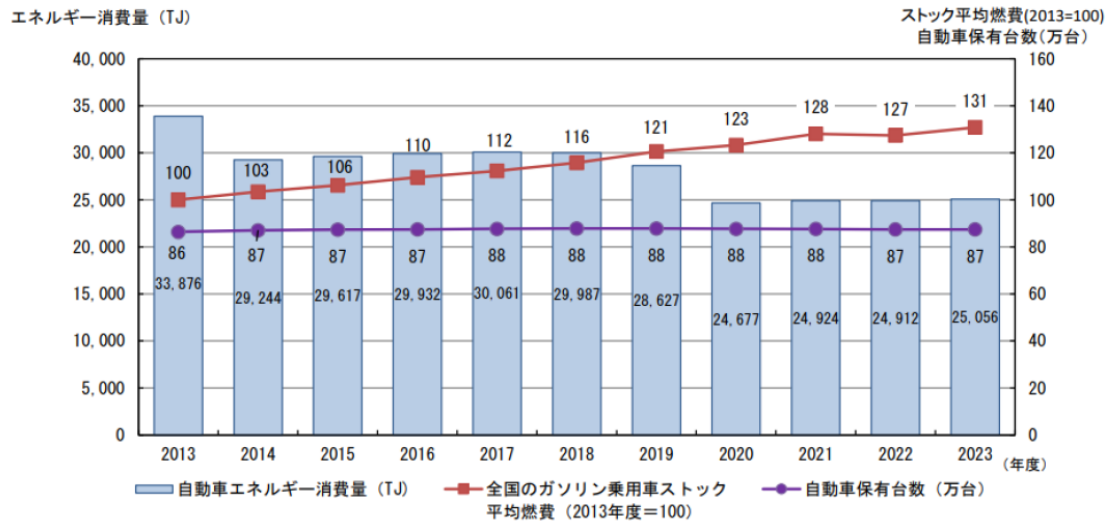
- ・2023年度のエネルギー消費量は、基準年度比25.2%減、前年度比では0.8%増。
- ・96.3%を占める自動車部門における増減率が、ほぼそのまま総量に反映
⇒ 自動車(マイカー等)について、効率の改善(低燃費化)や使用の削減(徒歩や自転車、公共交通利用の促進)を図る必要

21

(以下、参考)

④ 運輸部門 要因分析

自動車におけるエネルギー消費量と増減要因



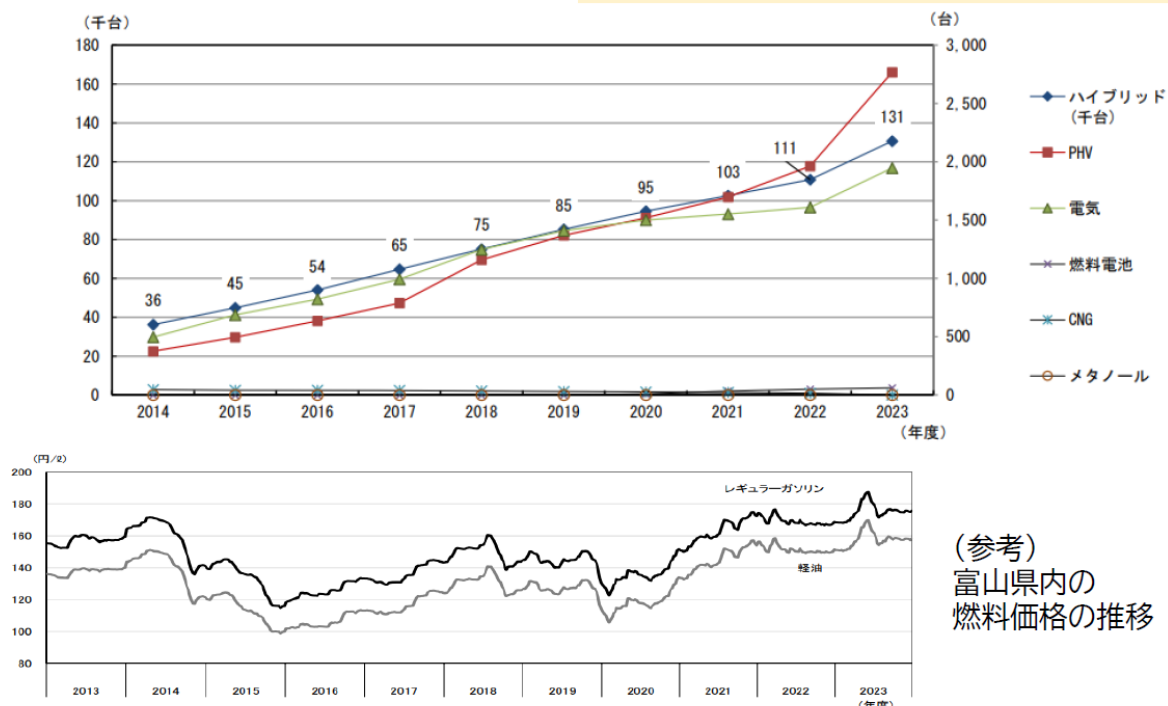
- ・県内の自動車エネルギー消費量は、2020年(コロナ禍)で減少したが、以降は横ばい
- ・県内の自動車保有台数は、概ね横ばい
- ・ガソリン乗用車のストック平均燃費(全国値)は、向上傾向

22

④ 運輸部門 要因分析

富山県内の低燃費車普及状況

・低燃費車は徐々に普及(PHVが伸びている)



23